



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第259回演奏会

The New Symphony Orchestra – 259th Concert

指揮 寺岡清高
TERAOKA Kiyotaka, conductor

ヨハン・シュトラウス2世 喜歌劇「ジプシー男爵」序曲

Johann STRAUSS Jr. (1825-1899): Overture to the Operetta "Der Zigeunerbaron", 1885

*「ジプシー」および「Zigeuner」は現在では差別的な用語とされていますが、作品の時代背景を考慮して原題のまま表記しています。

シューベルト 交響曲第3番 二長調

Franz SCHUBERT (1797-1828): Symphony No. 3 in D major, D 200, 1815

シュミット 交響曲第1番 ホ長調

Franz SCHMIDT (1874-1939): Symphony No. 1 in E major, 1899

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2022年10月23日(日) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Sunday, October 23, 2022, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,000 (全席指定)

チケットのお申し込み: teket <https://teket.jp/3558/14822> このQRコードをご利用ください→
インターネットを利用されない方は 080-9010-0058 (留守電にメッセージを入れてください)



*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyo.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

再評価が進むフランツ・シュミット

フランツ・シュミットという作曲家をご存知でしょうか。最近日本でも少しずつ聴く機会が増えてきたようです。新響では2015年に交響曲第4番、2018年に「ノートルダム」の音楽、2021年に交響曲第3番をウィーン在住の指揮者寺岡清高と演奏してきました。今回はフランツ・シュミットをメインに、ウィーンの大作曲家シューベルトとヨハン・シュトラウスの作品をプログラミングしました。

フランツ・シュミットはウィーン音楽院で作曲を学び、ウィーン宮廷歌劇場ではマーラーの指揮の下チェロ奏者を務めました。同じ年に生まれた新ウィーン楽派のシェーンベルクが12音技法をあみだしたのと対照的に、伝統的なロマン派を貫きました。今回演奏する交響曲第1番は、重厚な響きと歌心溢れるシュミットらしさを堪能できる曲です。

天才シューベルトの若きシンフォニー

シューベルトは、ウィーンにとって特別な作曲家です。この街で活躍した大作曲家は多いですが、その中でもシューベルトはウィーン生まれのウィーン育ち、それまで貴族のための音楽だったものが、市民が担い芸術性を高めるのに大いに貢献しました。ベートーヴェンを崇拝しつつもモーツァルトの音楽を好み、師匠のサリエリからモーツァルトの真似だと非難されたようです。「歌曲王」として『魔王』や『野ばら』といった多くの名曲をのこしていますが、交響曲は『未完成』『ザ・グレート』が演奏されるくらいです。しかし、あとの6曲も魅力的な作品ばかり。特に今回演奏する第3番は、18歳の作ながらシューベルトらしさが表れた美しく美しい曲です。

ヨハン・シュトラウス2世の人気オペレッタ

そしてウィーンと言えばシュトラウス・ファミリー。父ヨハン・シュトラウス1世は自身の楽団を持ち「ワルツ王」として人気を博していました。音楽家を目指す長男のヨハン・シュトラウス2世を、父はあの手この手で阻止しましたが、母の後押しで何とか2世はデビューし、その後父と母は離婚、父亡き後は2世の方が「ワルツ王」と呼ばれるようになりました。『美しく青きドナウ』、『ウィーンの森の物語』、『皇帝円舞曲』といった超有名なウィンナーワルツは2世の作品です。オペレッタにも進出し、特に『こうもり』『ジプシー男爵』は成功を収め、今日でも上演機会が多い2演目です。

どうぞお楽しみに！(H.O.)

ご来場いただくお客様へ（新型コロナウイルス感染症対策）

当日は平熱と比べ高い発熱、咳・のどの痛み・倦怠感等の体調不良がある方はご来場をお控えください。

会場入り口でご来場の皆様の体温を測定いたします。会場内ではマスク着用し、咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒をお願いします。ほかの人との距離をできるだけ空け、大きな声での会話はお控えください。クローカーサービスは必要最小限（大型荷物のみ）です。出演者への贈り物はお控えください。

体調に不安がありご来場をお控えいただく場合や、当日の検温の結果入場いただけない場合は、チケット代を払い戻します。

詳しくはホームページにて注意事項や公演の最新情報をご確認ください。これらのお願い事項につきましては、状況により変更になる場合がありますので、ご了承ください。

今後の演奏会予定

<第260回演奏会>

2023年1月14日（土）18時 東京芸術劇場

指揮 湯浅 卓雄

曲目 別宮貞雄/管弦楽のための二つの祈り、交響曲第3番「春」、ウォルトン/交響曲第1番

<第261回演奏会>

2023年4月23日（日）14時 東京芸術劇場

指揮 矢崎 彦太郎

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志（1925-89）の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展（1976年にサントリー音楽賞を受賞）、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ（山田一雄指揮、1979～90）、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏（石井眞木指揮、1993）、伊福部昭米寿記念演奏会（2002）、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演（高関健指揮、2004）、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演（飯守泰次郎指揮、2006）など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券（どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能）を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail：shinkyo@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時～9時、東京芸術劇場（池袋）、クラシック・スペース☆100（大久保）他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。対象年齢：生後3ヵ月から小学校入学前、1公演あたり2,200円（税込）お問合せ：株式会社ミラクス ミラクスシッター、電話0120-415-306（平日9:00～17:00、土日祝日休み）